

石野製作所（金沢市）



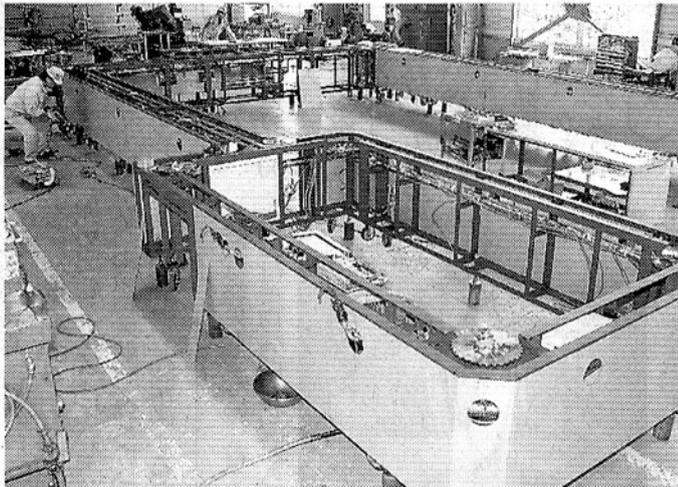
安くてうまい、家族連れで気軽に入れる——。外食の定番になった回転ずし。その命とも言える、皿を回すコンベヤーの製造で国内トップの約6割のシェアを誇るのが「石野製作所」だ。これまでに国外20カ国、計約200台を含む、約5千台のコンベヤーを出荷してきた。

白山市の同製作所松任工場内では、全長約50分のコンベヤーが完成間近の姿を見せていた。側面の金属製カバーを取り付ける社員の隣で、別の社員が図面とにらめっこしながら組み立てに必要な部品を書き出していた。

回転ずし店との打ち合わせでコンベヤーの形状を決め、部品を発注。お湯の配管やモーターなどを取り付ける。店舗によって形状が違いため、組み立てはすべて手作業だ。大量生産はできない。小田初義・松任工場長(60)は「効率

は悪いが、つくれない形状はない。それがうちの強み」と胸を張る。

同製作所は、織機に使うバネの製造・販売会社として1959（昭和34）年に創業した。大阪で全国初の回転ずし店がオープンした翌年だった。昭和40年代、金沢の近江町市場内の回転ずし店から



完成間近のコンベヤー側面に、カバーを取り付ける。運転確認後に一度解体してから店舗に運ぶ

「回転ずし」支えシェア6割

「席でお茶が出る装置を造ってくれないか」との要望があり、これがコンベヤー製造を始めるきっかけとなった。74年、それまで後付けだった給茶装置とコンベヤーを組み合わせた「自動給茶装置付寿司コンベヤー機」を開発。全国から注文が相次いだ。

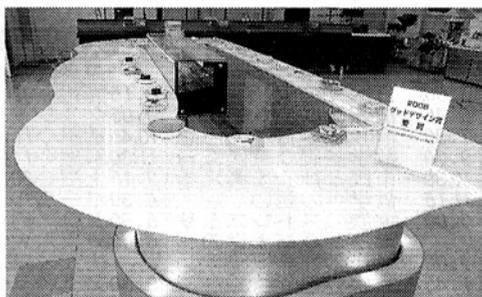
当初は四角い形のコンベヤーだけ。だが、技術改良でカタカナの「ヨ」の形、三角形に近い形などが製造可能に。その後、「自動寿司にぎり機」「自動皿洗浄機」、ICタグを皿の下に取り付けた自動清算システムなど、現在の回転ずし店に欠かせない機器を次々と開発した。

中でも00年に開発した、磁石で回転するチェーンレスコンベヤー機は、回転ずし店だけでなく都内の眼鏡販売店のディスプレイにも使われた。

吉田利浩・知財部長(57)は「研究を重ねて、我々の技術を多くの業界に使ってもらいたい」と話す。（山岸玲）

株式会社石野製作所
 〈本社〉金沢市増泉5の10
 の48☎076・241・7185 〈創業〉1959年10月 〈資本金〉5000万円 〈従業員〉95人
 〈08年納入実績〉全国各地の回転ずし店舗約200店など

プロフィール



完成したチェーンレスコンベヤー機。いずれも白山市源兵鳥町の石野製作所松任工場